

数学 北海道大学 総合入試【理系】、学部入試【医(医)・(保健-放射線・検査・理学)・歯・獣医・水産】

<全体分析>

試験時間	120分	解答問題数	5題
------	------	-------	----

解答形式

全問記述方式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

前半の設問は得点しやすくなったが、完答するのが難しい問題が多い。

出題の特徴や昨年との変更点

数学Ⅲの「微分法」からの出題が2題になり、数学Ⅲからの出題は増加したが、「積分法」からの出題が全くなかった。

その他トピックス

文系との共通・類似問題が今年は復活した(4)。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	複素数平面 数列の極限	数学Ⅲ 数学Ⅲ	複素数係数の漸化式は慣れていない受験生が多いので難しく感じたかもしれない。	標準
2	空間座標	数学B	以前の北大ではよく出題されていた「球面」と「平面」, 「直線」の問題。それほど難しくないので完答したい。	標準
3	微分法	数学Ⅲ	(1)は難しくない。(2), (3)は2変数の問題であるが落ち着いて(1)の利用を考えて解答したい。	標準
4	確率 数列	数学A 数学B	題意が取りにくかったかもしれない。(1), (3)で実際に必要なのは「重複組合せ」の知識である。	やや難
5	図形と方程式 微分法	数学Ⅱ 数学Ⅲ	三角関数の計算をしっかりとやれば、(2)までは解ける。(3)の後半が難しいだろう。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

とても難化した昨年と比較すると、今年は手の出しやすい設問が増えたので、昨年よりは解きやすかっただろう。しかし、どの問題も最後の設問まで解くのは難しかったかもしれない。それは、3年前までの北大の傾向と同じで、北大らしさがここには出ていたと言えるだろう。毎日、正しく学習してきた者がきちんと得点して、合格できるような問題の出題がこれからも続くと思われる。たとえ完答できなくても、解答できる設問を増やし、部分点を粘り強く積み重ねることができるよう学力を身につけておきたい。そのためには日頃からの学習が大切である。毎日、毎日、コツコツと努力を続けることが合格へつながる。